

僕と相棒

西部中・3 藤田 翔蒼

いつも通りの音楽
相棒のスパイクの手入れ
ストレッチ

朝四時四十五分のアラーム
いつもなら止めて二度寝
でも今日は違う
目標の全国大会がかかっている
すぐに着替え

体を起こすためにウォーキング
ここでもいつも通りの音楽
でも今日は何か違う
空は晴れているのに
心は曇っている
いつも以上の

緊張と
不安
でもほんの少し
「相棒と早く走りたい」
という気持ちもある

会場に行くまでも
いつも通りの音楽
音楽のリズムより

早くなる心臓

会場に着きアップ開始
頭の中ではいつも通りの音楽
いつも通りのアップ
でと運悪くいつも以上に気温が高い
雲もほとんどない
なのに心は雨が降り始めている
でも

「相棒ともっといい状態で
走れるようにしないと！」
という前向きな気持ち
朝より大きい

招集が始まりスタート位置の方へ
ここでやっと
相棒と合体
流しを二本
相棒は飛び跳ねているようだった
体も動く
なのに心は土砂降り
そんな僕たちを気にかげず
時間は迫ってくる

スタート直前父からの一言
「絶対切れる」

その言葉で一気に心の雨が止み

雲と雲との隙間から日光も差し始めた

on your mark
「お願いします」
パン！

一斉にスタート
目標のペースで入りいつもと同じように
いつも通りの音楽の頭の中
二〇〇〇Bまではこの余裕があり
リラククスしていった
急に音楽が消えたラスト一〇〇〇B
暑すぎて何も考えることができない
「ヤバイ……」
「無理だ……」

という言葉が
音楽が変わって流れてくる
が、それと同時に
相棒の声

「まだ行ける！僕が助ける！」
という言葉でまだ行けると思えた
相棒に助けられた
タイムを見ながら
相棒と並走

ラスト一周必死にもがき
両手を挙げてゴール
八分五十一秒で全国大会出場を決めた
トラックに礼をし
フラフラ歩く

スタンドからコーチに

「よくやった！」

と言われ大きな声で

「ありがとうございます！」

スタート位置に戻り

父ともハイタッチ

座り込んでしばらく

相棒を持ち上げた

トラックから出ると多くの人に

「おめでとう！」

と言ってもらえた

でも僕はすぐに

家族と見に来てくれた友達のところへ

「ありがとう！」

と言いに行った

帰りの車

またいつも通りの音楽

相棒のスパイクの手入れ

ストレッチ

でも今日は

いつも通りの音楽を聞き

相棒を抱きながら

眠りについた

僕の心は満点の星空だった